

すぎのこつうしん

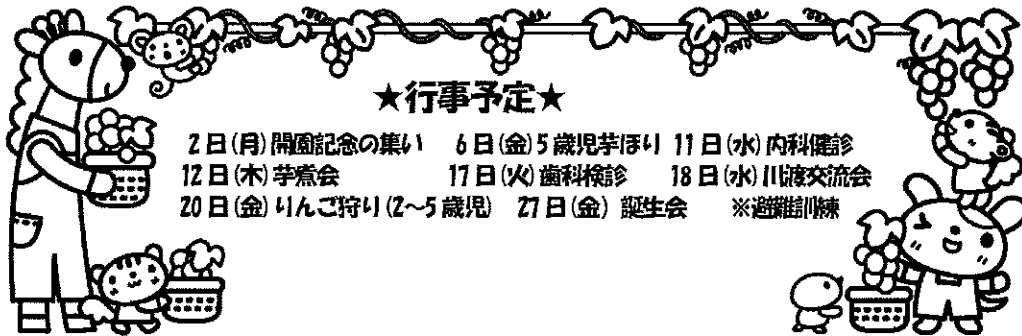
平成29年度10月号

古川東町カトリック保育園

「自然を大切にすることを育みましょう」

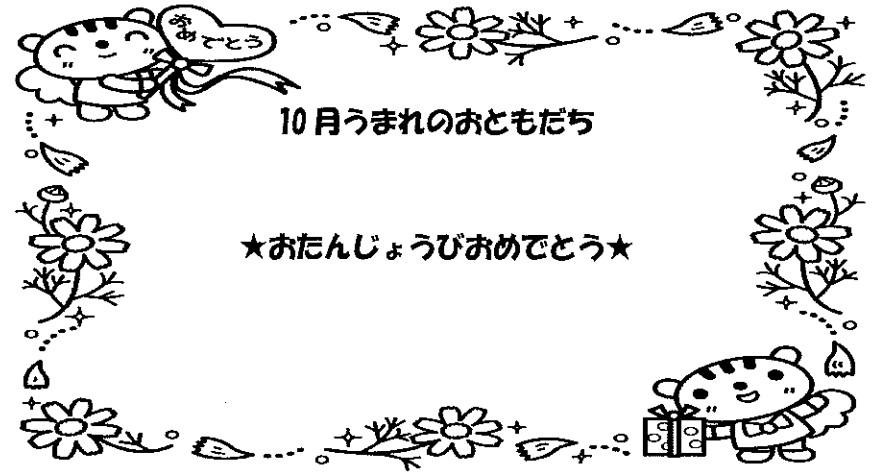
子ども達が練習の成果を存分に発揮し、泣いたり笑ったりと様々な姿をみせてくれた運動会も無事終わることができました。保護者の皆様の御協力があってこそ感謝いたします。夏を思わせる日中の陽差しの中、子ども達は虫探しに夢中になっています。いよいよ穏やかな秋の到来です。「天高く、馬肥ゆる秋」まさに空が澄み渡り高く晴れ自然の恵みである作物、梨、柿、りんご、さつまいも、栗、米等々がたくさん盛り、食欲を満たしてくれる秋です。子ども達と一緒に青空の下、芋煮会やりんご狩りに行くことを楽しみにしています。例年子ども達はりんご園のおじさんの話をじっと聞きりんごをそっと優しくもぎとり、大きくて真っ赤なりんごを手にとり嬉しそうな表情を見せたり芋煮会では5歳児の子ども達が「冷たい」と言いながら豆腐やコンニャクちぎりのお手伝い、その楽しそうな様子が目に浮かびます。自然は時には猛威を振るい、私たちの生活をおびやかしますが、同時に自然からの恩恵もたくさん与えてくれていることを改めて心に留め大切にすることを子ども達にも伝えていきたいと思っております。

<園長 平野 義子>



★行事予定★

2日(月)開園記念の集い 6日(金)5歳児芋ほり 11日(水)内科健診
 12日(木)芋煮会 17日(火)歯科検診 18日(水)川渡交流会
 20日(金)りんご狩り(2~5歳児) 27日(金)誕生会 ※避難訓練



10月うまれのおともだち

★おたんじょうびおめでとう★



♪おめぐみってなんでしょう♪

1. おめぐみってなんでしょう イエスさまからいただいた みんなのしょうぶなそのからだ
 そうよそれがおめぐみよ
2. おめぐみってなんでしょう マリアさまにまもられた みんなのきれいなそのこころ
 そうよそれがおめぐみよ
3. おめぐみってなんでしょう しゅごのてんしとごいっしょに あそぶたのしいほいくえん
 そうよそれがおめぐみよ

♪まつぼっくり♪

まつぼっくりがあったとさ たかいおやまにあったとさ ころころころころあったとさ
 おさるがひろってたべたとさ

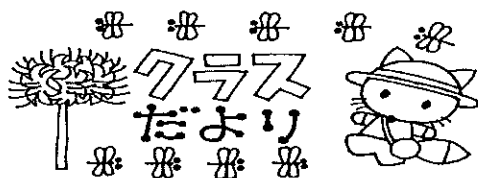


おとうさん・おかあさんから

生後6ヶ月の時にぼんび組からお世話になりました。うさぎ組の時、登園時に泣いて私から離れなかった時期がありました。そんな時「○○ちゃんどうしたの?一緒に遊ぼう」と声を掛けてくれたお友達、そして大きくなった璃子を抱っこして優しく声を掛けてくれたり私の相談事を忙しい中、聞いてくれる確かなアドバイザーをくれた先生方、本当にありがとうございました。

早いもので園での生活も残すところあと6ヶ月となってしまいましたが一日一日を大切に過ごしてほしいと思います。

(ひつし組 ○○○○ ○○ちゃんのおかあさん)



○ ぽんぴ組 (0歳児)

<ねらい>

- ・外気に触れ、自然の美しさの中で遊ぶ
- ・生活や遊びの中で友達存在に気づき関わろうとする

<家庭連携>

- ・天気の良い日には散歩をしたり戸外で遊ぶことで、外気に触れる心地良さや自然の中で遊ぶ楽しさを伝えていきましょう
- ・友達と遊ぶ機会があった時や保育園の送迎時に友達に声を掛けたり一緒に遊ぶ楽しさを伝えていきましょう

○ ひよこ組 (1歳児)

<ねらい>

- ・自然に興味を持って遊ぶ
- ・自分の気持ちを言葉で伝えようとする



<家庭連携>

- ・戸外遊びや散歩に誘うことで秋の自然に触れる機会を作り、自然に興味を持てるようにしましょう
- ・話せる単語や言葉が増えてきましたかと思うように伝えられないことがあります。言葉で伝えようとする気持ちを受け止め代弁していきましょう

○ ことり組 (2歳児)

<ねらい>

- ・自然の中で伸び伸び遊ぶ
- ・身の回りのことを意欲的にしようとする



<家庭連携>

- ・自然と触れ合える機会を作り伸び伸び遊べるようにしましょう
- ・スプーンの持ち方やボタンの掛け方など丁寧に知らせましょう。また、お子さんが着脱しやすい衣服を用意して下さい

○ こねこ組 (3歳児)

<ねらい>

- ・身近な自然に触れ、美しさを共感し合う
- ・友達と関わって遊ぶ中で相手の気持ちを知る



<家庭連携>

- ・自然の中で遊ぶ機会を作り、子どもの気づきに共感したり自然の美しさに気付くように声を掛けていきましょう
- ・されて嫌なこと、嬉しいことを知らせ、相手の気持ちに気付くようにしていきましょう

○ うさぎ園 (4歳児)

<ねらい>

- ・自然の美しさに触れ、大切にすることが育つ
- ・物の正しい使い方を知る



<家庭連携>

- ・散歩をしたり外に出て草花や虫、食べ物など秋の自然に目を向け、子どもの発見や驚きに共感しましょう
- ・家庭でも物の正しい使い方や扱い方を知らせ、それを守ることで安全な遊びができることに気付かせていきましょう

○ ひつじ組 (5歳児)

<ねらい>

- ・様々な自然の恵みによって生かされている自分に気付く
- ・役割を分担したり力を合わせたりして遊んだり、生活を送る



<家庭連携>

- ・衣食住にはどんな自然の恵みが関わっているのか知らせていきましょう
- ・家庭の中で子ども達ができる手伝いを用意し、自分の役割をきちんと実行することができたことで自信を持ち、自分が何か出来るかという考える力を付けていきましょう

○ 給食室

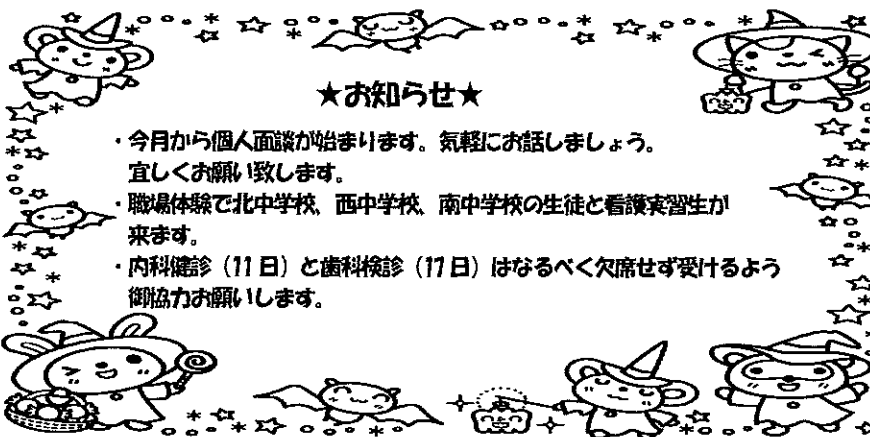
- ・野菜や魚、肉、私たちが日々頂いている食材は自然の恵みです。豊かな土、きれいな水、澄んだ空気がたくさんの食材を育みます。自然の豊かさに感謝をし大切にしていきたいと思います。



「自然を大切に作る心を育みましょう」

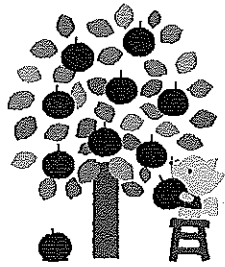
園庭で遊んでいると落ち葉でまごころをして遊んだり、散ってしまった花びらを集めている子ども達の姿をよく見かけます。大人になってしまうとそういった物を使って何かをしようという気持ちにはなかなかないものですが、子ども達は様々なアイデアを出して遊んでいます。散ってしまったから遊びに取り入れて落ち葉や花びらを使うことは自然を大切にすることに繋がっているのではと感じました。秋になり過ごしやすくなることで外への外出も増えるかと思えます。子どもと一緒に自然を大切にすることはどういうことか考えてみるのもいいかもしれませんね。私も日々の保育や毎日の生活の中で伝えたいと思います。

<ぽんぴ組担任 青木 友香>



★お知らせ★

- ・今月から個人面談が始まります。気軽にお話ししましょう。宜しくお願致します。
- ・職場体験で北中学校、西中学校、南中学校の生徒と看護実習生が来ます。
- ・内科健診(11日)と歯科検診(17日)はなるべく欠席せず受けよう御協力をお願いします。



あなたの一分間拝借！



10月の人間性教育目標は『自然を大切にすることを育みましょう』をテーマにしております。私達人類に「自然」がもたらす恵みは、多種多様で心を豊かにするものです。「風」という自然現象をとり上げてみても、それは秋の涼風のように、特に暑い日が続いた今年のような時、私達を励まし、いたわり、慰めてくれる力であり、『風』の有難みをひと際深く感じさせるものです。また、反面、同じ風が人々の命、家、財産、家族を一夜にして無に帰してしまう恐ろしい「しろもの」と化し、恐怖と不安のどん底に私達を陥れる『怪物』でもあります。台風、ハリケーンともなれば、ハイテク技術満載の宇宙船も、ジェット機も、新幹線もストップさせられ、その通過静寂に身を委ねなければならない科学文明の未熟さに、私達は謙虚になり、精進に精進を重ねて然るべきだと思います。でも人間の力に限界が歴然として存在する真理に心の目をそむけないように心掛けるべきでしょう。人間は全能ではありません。被造物（存在をあたえられたもの）に過ぎないのです。

「風」は見える物ではありません。手でつかむことも出来ません。でも確かにある「力」を持った存在です。だからこそ憧れもあり、詩情も感じ、一方では得体のしれぬ不気味さを秘めているものであることも事実であり、確かなこととして受け止めない訳にはいかないのです。姿は見えないけど動きだけは、はっきり伝わってきます。時には何かを動かし、運び、時には優しく美しく頬に触れ、時には情け容赦もなく、恐ろしい力として私達の前に立ちふさがります。秋の実りである果物や木々の実に甚大な被害を与え、人間や動物、小鳥たちにさえ心配させる「しろもの」、実に「風」は、異なもの神秘なものと言っても過言ではないでしょう。どこから来てどこへいくのか誰にもわからない「しろもの」なのです。でも、もし「風」がなかったら世界はどうなっていたでしょうか？……と考えさせられます。「風」で運ばれる植物の種、植物の受粉、肌遊びもできなくなります。お尻から糸をだし「風」を利用しながらアクロバット式に木から木へ移って巣をつくる蜘蛛の姿も見られなくなります。帆船で大洋を渡る楽しみもパーになります。私達人間にとって「風」がありすぎても、「風」がなくなっても困るものです。「風」という目で見ることが出来ない姿なき力の奥に実在する偉大な力に心の目を注いで、自然の真善美と共に人生をエンジョイしたいものです。実り多き秋の自然に感謝しながら、環境汚染から母なる地球の大地を守るようベストを尽くす10月の課題に挑戦しましょう。



聖書には、「神は、風のように息吹を与え、人を新しくする」とあります。

105歳で天に帰られた小倉遊亀さん（画家）は、最後の筆で次のように自分の気持ちをしたためて長寿を全うしたといわれております。

「人は、何も持たぬと言う人でも、
天地の恵みを頂いている！」

天地自然の恵みへの感謝の心を忘れがちな私達の心を自覚めさせるような言葉で冥想に値する辞世と受け止めたいものです。

自然を愛し、自然に感謝の心をもって生きる人々に神の憐れみある配慮があることを信じましょう。それは、天地創造主である神の愛に応えることになるのですから。

あなたも叡智をもって地球に新しい息吹を復活させ、心地よき場に変えていくことに協力することができるのです。間違っても環境破壊の協力者にはならないように心掛けましょう。

自然を大切に人は、神から遠くない人です。

カトリック古川教会
司祭 川井 啓

